

# 西穂高岳登山

2014.9.3～4 新潟の山友達3名と

9/3 (水) 曇り 松本市役所波田支所で合流 10:00～11:25 新穂高温泉  
登山者用駐車場 11:40～新穂高温泉ロープウェイ駅 12:00～西穂高口駅

(昼食) 13:00～14:12 西穂山荘(泊) 宿泊者 60名位

9/4 (木) 小雨・曇り 6:10～7:25 独標 7:35～9:05 西穂高岳(2909

M、昼) 9:40～10:50 独標 10:55～11:45 西穂山荘 12:00～

13:00 西穂高口駅 13:15～13:55 駐車場～ひらゆの湯で入浴・食事～

17:20 波田支所で解散。18:00 帰宅

昨年からの約束の山行。今年は天候が不順で当初は3～4日は晴れ時々曇りであったが、段々おかしくなってきた天候には恵まれませんでしたが、楽しい仲間と一月振りの山行を楽しめました。今日は筋肉痛・軽い腰痛です。新穂高温泉の登山者用駐車場は平日だと言うのにほぼ満車状態で指定場所以外にも駐

車が目立つ。此処のロープウェイは初めて乗る。途中で乗り換える不便さだがあつと言う間に標高 2156Mまで標高差 1039Mを上昇する。





鍋平からは2階建てのロープウェイになる。残念ながら展望は山並みの中間まで。下山者が多い登山道を歩き西穂山荘に早い到着。1998年10/8に奥穂高岳～ジヤンダルム～間ノ岳～西穂高岳

～上高地と難所を歩いた時に寄った懐かしい思い出の小屋である。今でも我が家の玄関にはその時の写真が、西穂山荘発行の「登頂認定書」と共に飾っている。

登山口には播隆上人像が

由緒書き



小屋の周辺はトリカブトの大群生地。そんなに混んでないのに、部屋は布団一つに一人ずつとはいえ、余裕のない部屋。この手の小屋は嫌いだ。空いている部屋をどんどん解放してユックリ寝かせるべきだ。旅館と違い部屋の掃除は手

がかからないのだから。宿泊料9500円の重みと登山者の心理を理解していないオーナー達が残念だ。入り口付近に寝るとトイレ時に踏まれて目が覚めてしまう。全く歩くスペースがないので。飲食は別館でとなっているので、別館で再会を祝して宴会。楽しい会話が続く。早く寝る。

西穂山荘



サラシナショウマ



カニコウモリ



トリカブトの群生



4日、出発する頃小雨が降り出す。雨具を着て歩き出す。全部で13峰越えて行くとの事で峰には番号がついている。独標到着。



雨はすぐ上がったが展望は全く無。此処は1967年8/1に松本深志高校の2年生の集団登山の際に落雷があり、生徒・先生11名が死亡、13名が重軽傷の遭難事故が発生した所だ。合掌。此処

から先は危険個所が多いと言われているが、高度感も無いし、危険を感じる場所は皆無に近かった。ピラミッドピークを越えて西穂高岳山頂に到着。

こんな登山道です



8峰はピラミッドピークです



西穂高岳山頂



展望無が残念無念！霞沢岳～前穂高岳～奥穂高岳への難関ルート～笠ヶ岳～焼岳と見渡せる筈だが。軽く食事して小屋へ戻る。途中往路で追い抜いた時に気になった4人連れのグループが休んでいた。ザックの大きさ等から「奥穂まで？」と聞いたら「そうだ」との返事。思わず「遅いね」と言って時計を見てしまった。何と10時だった。いくらザックが重いとしてもあまりにも歩くペースが遅いし、疲れた感じ。本来なら6:00～6:30頃には通過すべき地点だし、天候も悪い。顔ぶれも山慣れしている感じではないし。

トウヤクリンドウ



遭難慰霊碑



登山道脇には夏に終わりを告げるトウヤクリンドウが沢山ありました。



予定より大分早くに小屋に戻り、ロープウェイ駅まで歩き下山。帰路お気に入りの「ひらゆの湯」で入浴・食事して波田支所の駐車場で解散。楽しい山行有難う御座いました。